

令和 6 年度事業報告



日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

日本赤十字社佐賀県支部事業報告

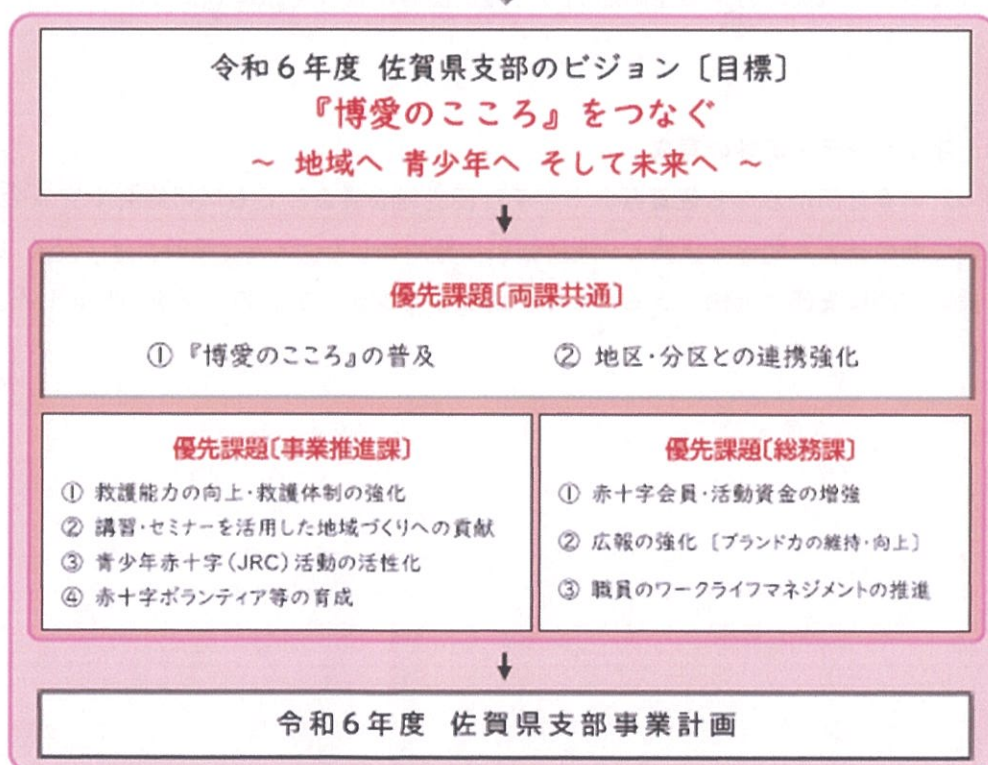
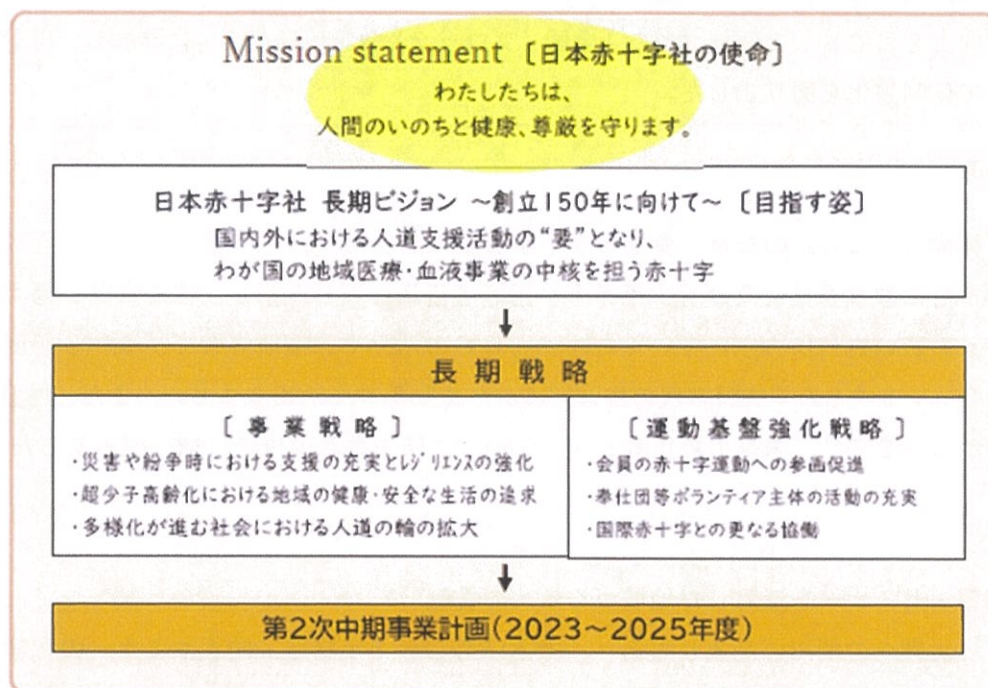
□ 令和6年度 佐賀県支部のビジョン（目標）	1
□ はじめに	2
1 災害救護活動	3
2 国際救援活動	13
3 救急法等の講習普及	17
4 赤十字奉仕団活動	21
5 青少年赤十字（J R C）活動	28
6 赤十字思想の普及と広報活動	36
7 赤十字会員及び活動資金の増強	40
8 支部評議委員会の開催	43
□ 佐賀県支部の組織・役職員	44
□ 日本赤十字社佐賀県支部の現勢	48

令和6年度 佐賀県支部事業報告

赤十字事業の推進につきましては、赤十字関係者をはじめ多くの県民の皆さまからご支援ご協力を賜りまして、心より厚くお礼申し上げます。

令和6年度は、『博愛のこころ』をつなぐ ～地域へ 青少年へ そして未来へ～』をテーマとして掲げ、下記のビジョン（目標）を踏まえ、各事業を実施しましたので、ご報告いたします。

令和6年度 日本赤十字社佐賀県支部のビジョン（目標）



はじめに

令和6年度の佐賀県支部の主な取り組みと成果は以下のとおりです。

I 救護能力の向上・救護体制の強化

国内で頻発、広域、激甚化する災害や大規模災害に備えるため、令和5年度に設置した「日本赤十字社佐賀県支部災害救護委員会」にて救護体制の整備、災害派遣、訓練、研修、人材育成、職員の意識醸成に至るまで、中長期的な視点で協議・課題解決を行いました。また、救護員の災害対応能力向上を目的として開催された「全国（ブロック）救護班研修会」に参加し、円滑な救護活動に向けて体制強化を図りました。

II 『博愛のこころ』の普及と青少年赤十字活動の活性化

県・市町の教育委員会及び青少年赤十字指導者協議会等と連携し、佐野常民が唱えた『博愛のこころ』を若い世代につないでいくため、JRCの活動や各種研修会で「令和5年度九州八県赤十字大会」で上映した“佐野常民の生涯”にかかる動画等を活用しました。また、児童・生徒自らが災害から命を守り、未来の被災者とならないよう防災教育の推進に取り組みました。

III 講習・セミナーを活用した地域づくりへの貢献

近年、災害への関心の高まりもあり、救急法等の赤十字講習・防災セミナーの依頼が増加傾向にあります。そこで、普及体制を強化すべく職員やボランティア指導員を育成しました。また、地域における防災・減災に対する意識醸成のため積極的に講師を派遣しました。

IV 赤十字ボランティア等の育成

県内12の奉仕団からなる佐賀県赤十字奉仕団支部委員会とともに研修会や交流会の開催など奉仕団間で顔の見える関係を構築し、連携強化に努めました。また、平時だけでなく、災害時の被災者支援のために支部と協働できる「赤十字防災ボランティア」の育成を図りました。

□事業内容

Ⅰ 災害救護活動

災害救護は、日本赤十字社の第一義的な事業です。大規模災害等の非常災害時における医療救護活動をはじめ、火災等による災害に対しても被災者支援を実施しています。

令和6年度も佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターで構成する「災害救護委員会」を通じて、3施設の緊密な連携及び救護体制の強化に取り組みました。

さらに、救護員の能力を向上するため、災害対策本部運営訓練や二部制の常備救護班要員研修会、救護班主事研修会などを実施し、迅速かつ効果的な救護を実現するための実践能力を高めました。

(Ⅰ) 救護体制の強化

ア 日本赤十字社佐賀県支部災害救護委員会

佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの県内3施設が、これまで以上に密な連携体制を構築し、救護体制の強化を図るために令和5年度に設置した「日本赤十字社佐賀県支部災害救護委員会」を開催し、災害救護に関して即時解決が必要な課題だけでなく、救護人材の育成など中長期的な視点からの課題に対しても協議し、解決に努めました。

・第6回：4月10日（水）

・第7回：12月13日（金）

主な協議事項

○令和6年能登半島地震の振り返りについて

令和6年能登半島地震における災害対応に関して、支部や施設担当者の役割や、派遣された職員に対するサポート体制強化について協議しました。今後想定される大規模災害に向けて更なる体制強化を行うことを確認しました。

○「令和7年度日本赤十字社佐賀県支部事業計画」について

災害救護に関する令和7年度の事業計画を、災害救護委員会の協議を経て決定しました。

イ 日本赤十字社佐賀県支部防災業務計画の修正及び第6ブロック大規模地震対応計画の修正

地震防災対策の推進に関する特別措置法に基づく政府の基本計画の変更等に基づいて、防災業務計画を修正しました。また、「南海トラフ地震」「首都直下地震」「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震」については、日本赤十字社第6ブロック（九州）としての対応計画を修正するとともに、南海トラフ地震において特に甚大な被害が予想される大分県・宮崎県は当支部を含めた第6ブロック全体で被災県を支援することを確認しました。

ウ 救護班の編成

日本赤十字社は、災害等に医療救護が必要な場合に迅速に救護班の派遣ができるよう「常備救護班」を編成しています。

本県支部関係の常備救護班は、5 個班（唐津赤十字病院 3 個班、佐賀県赤十字血液センター 1 個班、佐賀県支部 1 個班）30 人で編成しています。

救護班編成基準と要員数

区 分	医師	看護師長	看護師	主事	計
1 個班の編成基準	1 名	1 名	2 名	2 名	6 名

エ DMATの編成

「DMAT」とは Disaster Medical Assistance Teams の頭文字をとった略称で「災害急性期に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム（災害派遣医療チーム）」です。

厚生労働省が阪神淡路大震災を教訓に、災害拠点病院内に「日本DMATチーム」を編成し、大地震及び航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に派遣し超急性期の救急医療を担うことを目的に編成しています。

唐津赤十字病院では、日本DMAT 3 チーム（1 チーム医師 1 名、看護師 2 名、主事 1 名）を編成し、東日本大震災や熊本地震の際に出動したほか、各種訓練や研修に参加しています。

なお、佐賀県と日赤佐賀県支部（唐津赤十字病院）は平成 21 年 4 月 1 日に「災害派遣医療チーム指定病院」としての協定を締結しています。



（２）個々の救護員の能力向上

ア 日本赤十字社佐賀県支部災害対策本部運営訓練

令和元年、3 年、5 年の豪雨災害において被災地県支部として災害対策本部を運営した経験や反省を引き継ぐとともに、次に来る災害対応を円滑に行うため、支部職員 11 名を対象に運営訓練を実施しました。

・日 程：6 月 21 日（金）



イ 常備救護班要員研修会【2 部制】（主催：日本赤十字社佐賀県支部）

令和 3 年度より実際の救護活動を踏まえて施設ごとに対象職員を 2 部に分け、救護活動の経験と最新の知識・技術を取り入れながら、より実践的で充実した研修を実施しました。

なお、本研修内容については、最新の知見を研修に反映させるため、支部・病院・センターに所属する多職種からなる災害救護員会にて協議しました。

【第 1 部】

- ・ 主な内容：応急対応に係る救護班要員としての基礎訓練
- ・ 対 象：唐津赤十字病院及び佐賀県支部の救護班要員
- ・ 日 程：6 月 1 日（土）～ 2 日（日）
- ・ 場 所：唐津赤十字病院 佐野講堂、唐津市相知天徳の丘社会体育館

唐津赤十字病院及び佐賀県支部の救護班要員 17 名及び訓練スタッフ等 28 名の総勢 45 名が参加しました。今年度も他機関との連携を目的に佐賀県災害派遣福祉チーム（佐賀 DWAT）に参画していただき、避難所アセスメント実習の際には避難者役を担ってもらうなど研修の充実に努めました。

○ 訓練内容

- ① 赤十字の災害救護活動の歴史・法的根拠
- ② 赤十字救護班としての行動規範・心得
- ③ 救護体制と救護班
- ④ 救護班の編成と管理運営
- ⑤ 日赤の救護活動の実際
- ⑥ 出動命令が出されたら
- ⑦ 1次トリアージ
- ⑧ 情報収集と管理（無線の取り扱い、クロノロジー記入）
- ⑨ 職種別演習（医師・看護師：2次トリアージ、主事：無線等）
- ⑩ こころのケア（班員のストレスケア）
- ⑪ 救護活動時に使用する各種様式
- ⑫ エアテントを使用した救護所設営の手順確認
- ⑬ 救護シミュレーション（急性期対応）
- ⑭ 避難所アセスメントシミュレーション



【第2部】

- ・ 主要内容：支部災害対策本部運営及び本部支援
- ・ 対 象：佐賀県赤十字血液センターの救護班要員
- ・ 日 程：6月21日（金）
- ・ 場 所：日本赤十字社佐賀県支部 2階会議室他

佐賀県赤十字血液センターの救護班要員6名及び訓練スタッフ4名の総勢10名が参加しました。雨災害の対応経験を基に、感染防止対策を徹底しながら実践的なカリキュラムを実施しました。

○ 訓練内容

- ① 赤十字の災害救護活動の歴史・法的根拠
- ② 赤十字救護班としての行動規範・心得
- ③ 赤十字の救護体制と支部の役割
- ④ 日赤の救護活動の実際
- ⑤ 出動命令が出されたら
- ⑥ こころのケア（班員のストレスケア）
- ⑦ 支部施設見学



ウ 災害看護論研修

唐津赤十字病院看護師20名、運営スタッフ（日本赤十字社佐賀県支部）3名、の総勢22名が参加しました。救護活動に必要な知識・技術・態度を身につけ、災害時の看護実践能力を養うことを目的に実施しました。

- ・ 日 程：10月4日（金）～5日（土）
- ・ 場 所：唐津赤十字病院

○ 研修内容

- ① 災害医療概論
- ② 災害看護概論
- ③ 赤十字の災害救護活動
- ④ 出動命令が出されたら
- ⑤ 基礎行動
- ⑥ 救護倉庫と資器材の確認



- ⑦ エアテントを使用した救護所設営の手順確認
- ⑧ 救護活動時に使用する各種様式
- ⑨ 救護活動時に使用する通信手段
- ⑩ 災害救護シミュレーション

エ 救護班主事研修会（主催：日本赤十字社佐賀県支部）

日赤救護班要員の主事の業務は、平時の通常業務と異なるにも関わらず複雑で多岐に渡るため、災害時、被災地でスムーズかつ効果的に活動を行うには、事前の研修や訓練が欠かせません。その主事に特化した研修会を令和2年度から開催し、今回5回目を開催しました。日本赤十字社佐賀県支部2名、唐津赤十字病院7名、佐賀県赤十字血液センター2名の主事11名並びに訓練スタッフ等9名の総勢20名が参加しました。

- ・ 主な内容：主事に必要な知識、技術、態度を習得すること
- ・ 対 象：救護班要員の主事職に任命される職員
- ・ 日 程：2月22日（土）
- ・ 場 所：唐津赤十字病院 佐野講堂他

○訓練内容

- ① 救護班要員としての主事とは
- ② 日赤の救護活動の実際と変遷
- ③ 基礎行動
- ④ 救護活動時に使用する通信手段
- ⑤ 災害診療録とJ-SPEED
- ⑤ E M I S の取り扱い
- ⑥ 出動準備～活動～撤収（机上シミュレーション）
- ⑦ 医師等から見た主事について



オ 第6ブロック通信訓練

災害時、固定電話や携帯電話など通常の通信網が使用不能となった場合を想定し、九州各県支部の緊急連絡系統整備・確立することを目的に、毎月第3水曜日に実施しました。

カ こころのケア研修（唐津赤十字病院 12月6日（金））

唐津赤十字病院看護師21名、日本赤十字社佐賀県支部1名、指導者4名の総勢29名が参加し、救護活動におけるこころのケアについて必要な知識・技術・態度を身につけ、災害時の実践能力を養うことを目的に実施しました。

○研修内容

- ① 災害時のストレス反応
- ② 被災者へのこころのケア
- ③ こころのケア活動の流れと実際
- ④ こころのケアの実践（グループワーク/ロールプレイ）
- ⑤ セルフケア

キ 支部災害対策本部要員研修会（熊本 1月23日（木）～24日（金））

日本赤十字社の災害救護活動を的確かつ迅速に実施するために、災害対策本部要員として、支部が設置する災害対策本部等の機能、業務及び体制並びに組織等について理解

することを目的として、日本赤十字社熊本県支部で開催された本研修会に、佐賀県支部 3 名が参加しました。

ク 全国（ブロック）赤十字救護班研修会（福岡 2月1日（土）～2日（日））

救護班要員が災害救護活動を実施する法的根拠や指揮命令系統、日赤内外の組織との連携の必要性などの知識を向上させるとともに、応急対応期における医療ニーズに対応可能な技術を習得することにより、今後において発生が予測されている南海トラフ地震などの大規模災害における日本赤十字社の災害対応能力の強化とブロック内の連携強化を目的に、受講者として唐津赤十字病院より救護班1班（6名）、指導スタッフとして唐津赤十字病院より7名、佐賀県支部より2名、佐賀県赤十字血液センターより1名が参加しました。

ケ こころのケア指導者養成研修会（本社 10月9日（水）～10日（木））

救護活動の重要な柱の一つである災害時におけるこころのケア活動を実践する救護員の指導者を養成する研修会に唐津赤十字病院看護師1名が参加しました。

コ 日赤災害医療コーディネート研修会（本社 7月5日（金）～6日（日））

（本社 11月23日（土）～24日（日））

日赤災害医療コーディネートチームの活動能力向上を目的にチーム要員を養成する研修に唐津赤十字病院医師1名がスタッフとして、唐津赤十字病院看護師1名が受講者として参加しました。

サ 救護員としての赤十字看護師フォローアップ研修

（唐津赤十字病院 9月27日（金））

救護員として登録した看護師の内、一定期間経過した看護師20名に対して、改めて赤十字救護員の役割を理解し、災害の状況に応じた看護活動が実践できる看護師の育成を目的に実施しました。

○研修内容

- ① 救護員としての赤十字看護師の育成に関する取り組み
- ② 日本における災害対策および日本赤十字社の災害救護活動
- ③ 災害サイクルに応じた看護活動
- ④ 災害時における感染制御
- ⑤ 災害の特性に応じた救護活動
- ⑥ 災害時の遺体の対応（こころのケア）
- ⑦ 被災者特性に応じた看護活動（グループワーク）

シ 日本災害医学会総会・学術集会（名古屋 3月6日（木）～8日（土））

日本赤十字社佐賀県支部の救護員に対する研修体系について赤十字内外の災害救護関係者と議論するために演題発表を行いました。

演題：日本赤十字社佐賀県支部が実施する救護班要員研修会の変遷
～よりよい研修成果を目指して～

演者：唐津赤十字病院 医療社会事業部長 酒井正
日本赤十字社佐賀県支部 事業推進課災害救護係長 上瀧達也

(3) 防災関係機関との連携の強化

ア 佐賀県原子力防災訓練（11月30日（土））

唐津赤十字病院より20名が参加し、県や長崎大学と協働して、傷病者受け入れ・処置訓練を行いました。佐賀県支部では、佐賀県原子力災害対策本部との情報伝達訓練を行いました。

イ 佐賀県国民保護共同実働訓練（5月30日（木））

唐津赤十字病院より救護班1個班（6名）、ファシリテーターとして唐津赤十字病院医師1名、佐賀県支部1名が参加し、「SAGA2024 国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会」のメイン会場であるSAGAアリーナで、化学剤の散布テロを想定に関係機関と協働した傷病者対応の手順を確認しました。



ウ 嘉瀬川・六角川・松浦川総合水防演習（5月19日（日））

佐賀県支部1名、赤十字ボランティア4名が参加し、嘉瀬川が氾濫したことを想定に、水難者や孤立者の応急救護所の設置を行いました。また、同時に開催された防災展示にも日赤のブースを設置し、自助・共助の重要性を訴求しました。



エ 航空機事故総合訓練（佐賀空港、10月20日（日））

佐賀県支部2名、佐賀県赤十字血液センター1名に加え、唐津赤十字病院より救護班1個班（6名）が参加し、DMA Tや消防等の関係機関と協働して、「通報訓練」、「トリアージ地区・救護所等設置訓練」「トリアージ・救護訓練」を実施しました。



オ 九州地方非常通信訓練（8月26日（月））

佐賀県支部1名、唐津赤十字病院1名が参加し、災害時に固定電話や携帯電話が輻輳又は使用不可となった場合でも、衛星電話や防災相互波無線通信を用いて佐賀県や他県支部と相互連絡ができるよう通信訓練を行いました。

(4) 赤十字防災ボランティアとの協働

- ア 防災ボランティア緊急連絡訓練及び「日赤さが防災ボランティアセンター」立ち上げ・運営訓練（佐賀県支部 基礎編：4月20日（土）、5月25日（土）、6月7日（金）、8月31日（土））
（佐賀県支部 実践編：8月31日（土））

災害時、防災ボランティアが迅速かつ効果的に救護活動を実施するため、支部からの支援要請を緊急連絡網で伝達・回答し、支部に参集後は、防災ボランティアセンターの立ち上げと、防災ボランティアリーダーを中心に運営できることを目標に実施しました。

【基礎編】

参加人数：防災ボランティア 57 名

内 容：① 防災ボランティア緊急連絡訓練について
② 災害時の赤十字ボランティアについて
③ 防災ボランティアセンターの運営等について

【実践編】

参加人数：防災ボランティア 38 名

(うち防災ボランティアリーダー 4 名)

支部職員 5 名

内 容：① 令和元年、令和 3 年佐賀豪雨におけるボランティア活動について（実践報告）
② 防災セミナー「ひなんじょ たいけん」
③ 義援金の受付手順について



(5) 救護装備及び救援物資の整備

令和 6 年度末における救護活動に必要な資機材の保有状況及び救援物資の備蓄状況は次のとおりです。

ア 救護資機(器)材の保有状況

(令和 7 年 3 月末現在)

品 名	数 量	品 名	数 量
救急車	2 台(1)	発電機	5 基(1)
災害救援車	7 台(2)	投光器	6 台
災害連絡車	2 台	防雨ヘッドランプ	40 個(4)
医療セット	2 組(2)	防護用ゴーグル	40 個(10)
担架	20 台(5)	防護用ヘルメット	35 個(4)
簡易ベッド	26 台(6)	折り畳み式机	6 台
災害救護用パソコン	1 台	無線基地局(150MHZ)	3 局
災害救護用通信機器(Wifi)	1 機	車載無線機(//)	27 台(16)
パイプテント	27 張(20)	携帯無線機(//)	14 台
ドラッシュテント	1 セット	無線基地局(400MHZ)	1 局
エアテント大	3 セット(2)	車載無線機(//)	7 台
エアテント小	2 セット(1)	携帯無線機(//)	15 台
イージーアップ・テント	22 張(20)	車載衛星電話	2 機
NBC 災害除染セット	1 セット	可搬型衛星電話	1 機(1)
デジタル個人線量計	42 個	折り畳み舟艇	1 隻

品 名	数 量	品 名	数 量
空間線量率測定用サーベイメータ	1 台	折り畳みリヤカー	2 台
防護服セット	42 セット	非常用炊き出し釜	22 台
災害用トイレ（ラップポン）	12 据	DMA T 資器材	1 セット(1)
自動体外式除細動機(AED)	2 台	浄水器	1 台
蓄電池（大）	2 台	蓄電池（小）	3 台

※（ ）カッコ内は管内赤十字施設及び地区分区の備蓄数（内数）

イ 救援物資の備蓄状況（地区分区備蓄分含む）

（令和7年3月末現在）

品 目	年度当初	受 入 (整備等含む)	払 出 (配布等含む)	年度末備蓄
毛布 (枚)	1,264	0	99	1,165
タオルケットセット (組)	228	200	1	427
バスタオル (枚)	592	0	94	498
緊急セット (個)	416	0	44	372
安眠セット (組)	420	0	42	378
ブルーシート (枚)	110	0	0	110
非常食 (食)	578	0	0	578

（6）災害被災者に対する緊急物資等の配布

令和6年度は、火災等により罹災された33世帯に対し、次のとおり見舞品及び見舞金を贈呈しました。

世帯数	毛 布	バスタオル	緊急セット	見舞金等(円)
33	69	65	31	290,000



毛布・安眠セット



緊急セット

(7) 赤十字防災セミナーの開催

ア 防災教育事業指導者の育成

全国で実施される「日本赤十字社防災教育事業」の普及・拡大に伴い、事業(セミナー)の指導・運営を行う指導者を養成する防災教育事業指導者養成研修会を開催し、新たに職員2名、奉仕団員7名の指導者が誕生しました。

防災教育事業指導者在籍状況

(令和7年3月末現在)

名 称	所 属	人 数
佐賀県支部防災教育事業指導者	職 員	6 名
	奉仕団員	14 名
佐賀県支部防災教育事業主任指導者	支部職員	1 名

イ 赤十字防災セミナーの開催

近年、全国で大雨や台風、地震など自然災害が頻発する中、地域住民の防災に対する意識がこれまで以上に高まっています。そのニーズに応えるため、地域防災組織や学校などへ出向き、赤十字が保持している知識や技術をもとに、自助・共助の考えや応急手当、災害食作りなどをカリキュラムとした「赤十字防災セミナー」を開催し、新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら、自分のいのちは自分で守る「自助」の考えや事前に備えることの重要性を訴えました。



防災セミナーの開催状況

実施回数	参加者数	セミナーの内容
24 回	1,214 人	○防災講話 … 災害への備え、自助共助の役割、避難のルール、避難所での生活、非常持ち出し品の準備 ○応急手当 … ストッキング・毛布・新聞紙等を応用した手当 ○災害食作り … ハイゼックス（炊飯袋）を使った炊き出し（飲食は伴わず）

(8) 臨時救護

公共性が高く多人数が参加するスポーツ大会やイベント等へ救護班(員)を派遣しています。

救護班（員）派遣状況

派遣回数	派遣延日数	派遣人数 (医師・看護師・主事・赤十字奉仕団)	応急手当をした人
10 回	16 日	26 名	2 名

(9) 赤十字看護師（救護員）の養成

救護看護師を確保するとともに、唐津赤十字病院における看護師の充足を図るため、日本赤十字九州国際看護大学（福岡県宗像市）で学ぶ学生に奨学金を貸与し看護師の養成を行っています。

なお、奨学金は1人年額60万円で継続して4年間貸与し、県支部と唐津赤十字病院が負担しています。令和6年度における救護看護師の養成は次のとおりです。

看護師奨学生の養成区分

（令和7年3月末現在）

学 校 名	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
日本赤十字九州国際看護大学	1名	2名	0名	0名

(10) 国内義援金

これまでに国内で発生した地震・豪雨・台風などによる災害被災者に対し、令和6年度に県民の皆様から寄せられた義援金は、日赤本社並びに被災県の日赤支部（被災県の配分委員会）を通じて被災者に全額届けられました。

内 訳	件 数	金 額（円）
令和6年能登半島地震災害義援金	743	27,585,768
令和6年7月25日からの災害義援金	11	58,418
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	197	7,153,344
令和6年沖縄県北部豪雨災害義援金	6	7,606
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	27	448,689
合 計	984	35,253,825

2 国際救援活動

世界各地で紛争、災害、病気といった人道危機に苦しむ人々への支援活動を行いました。

特に、ウクライナにおける人道危機やイスラエル・ガザ人道危機、地震や洪水など、避難者や被災者に対する支援は急務です。

日本赤十字社の国際活動は、赤十字国際委員会（ICRC）及び国際赤十字・赤新月社連盟の調整の下、世界 191 の国や地域に広がるネットワークを通じて、こうした紛争や災害の犠牲者に対する緊急救援や復興支援をはじめ、開発途上国における貧困や保健衛生の改善、減災対策など、中長期的な開発支援活動に取り組み、人道的任務の達成に努めています。

- | | |
|--------------------------------------|----------------|
| ○独立国 | 196 カ国（日本政府承認） |
| ○国連加盟国 | 193 カ国 |
| ○国際赤十字・赤新月社連盟加盟国 | 191 カ国 |
| （赤十字 156 カ国、赤新月社 34 カ国、ダビデの赤盾社 1 カ国） | |



被災者に声をかける米国赤十字社ボランティア
©米国赤十字社



レバノンから避難してきた子どもと共に時間を
過ごすシリア赤十字社のボランティア©SARC
（レバノン人道危機）

（1）日本赤十字社の活動

日本赤十字社は、紛争や災害の避難者や被災者を救援するために国際赤十字や国内の赤十字組織と連携しながら、医療救護要員や開発支援要員を養成・派遣するとともに、物資や資金の提供など緊急支援や中長期的な支援活動を迅速かつ計画的に実施しています。

これらの事業に要する資金は、国民の皆様から日赤本社及び各都道府県支部に寄せられる尊い活動資金・寄付金（災害救援金）・NHK海外たすけあい募金や国際救援金とその財源となっています。



被災者へ食事を提供するトルコ赤新月社
（C）トルコ赤新月社



火災により家が全焼した被災者を元気づける
赤十字ボランティア©米国赤十字社

ア 最近の日本赤十字社による主な緊急救援・復興支援実施事業

事業名	実施年	実施内容
バングラデシュ南部 避難民救援	平成 29 年～	医療チーム派遣等の緊急救援から母子保健を含む診療サービスや避難民ボランティアによる地域活動、こころのケア等中長期支援
中東人道危機救援	平成 23 年～	日本人医療者による医療技術支援や診療所の衛生環境整備等、シリア難民・パレスチナ難民や受け入れコミュニティへの支援
ウクライナ人道危機 救援	令和 4 年～	ウクライナ及び周辺国において資金援助、薬剤師、こころのケア要員、理学療法士等の派遣、救急車及び医療資機材の供与等
トルコ・シリア地震 救援	令和 5 年 2 月～	食事の提供、巡回診療や水・現金の給付、病院への搬送支援、日赤からシリア連盟保健医療コーディネータの派遣等
イスラエル・ガザ 人道危機救援	平成 5 年 10 月～	イスラエル、ガザ地区内での救急搬送や治療、物資配付、献血、避難民へのこころのケア、また周辺国での避難民流入への準備
台湾東部沖地震救援	令和 6 年 4 月～	見舞金の給付、家庭用品の配布、教育補助金の提供、防災訓練の実施、救護活動のための車両・通信設備の整備等。

イ 最近の日本赤十字社による主な長期的人道支援の取り組み

事業名	実施年	実施内容
ルワンダ気候変動等 レジリエンス強化事業	令和元年～	村落地域でのモバイルラジオによる生活改善の啓発活動、地域住民による共同貯蓄、家畜の配布、家庭菜園及び栄養指導、奨学金、給水設備やトイレの整備
アフガニスタン気候 変動対策事業	令和 2 年～	複合危機に直面する地域での植樹による緑化及び収入源確保、職業訓練や小規模融資、自主防災組織・学校防災組織への災害対応キット配布
インドネシア防災強化 事業（第 2 期）	令和 6 年～	災害リスクの高い地域での早期警報訓練、防災啓発のための家庭訪問、教員向け防災教育指導要領策定・配布、教員向け防災授業指導研修及び受講者による生徒への防災授業
大洋州気候変動対策 事業	令和 5 年～	若年層による気候変動への取り組み、各国赤十字社の環境負荷の軽減策、気象災害早期対応に向けた関係機関との連携及び体制構築
モンゴル保健支援事業	令和 6 年～	救急法講習の強化、精神保健・心理社会的支援の研修カリキュラムの策定、及び寒波・冷害への対応を見据えたこころのケア活動の拡充。

国際赤十字・赤新月社連盟を通じた支援	毎年実施	連盟を通じた保健・衛生、気候変動、災害対応、ユース等、幅広い活動への支援、各国赤十字・赤新月社の組織強化、および連盟が実施する地域会議・研修への支援
--------------------	------	--



こころのケアのイベントに参加する被災地の子ども達（シリア）©SARC



被災地アレppoで現地スタッフとともにニーズ調査を行う日赤職員（シリア）©SARC



医療チームによる被災者の診察©SARC

（２）佐賀県支部の活動

ア 国際救援活動

令和６年度に県民から寄せられた国際救援金は、日赤本社に送金し、被災国の緊急支援事業及び復興支援事業に役立てられました。

※支部直接扱い分

内 訳	件 数	金 額（円）
中東人道危機救援金	6	9,000
バングラデシュ南部避難民救援金	6	9,000
アフガニスタン人道危機救援金	6	9,000
ウクライナ人道危機救援金	31	388,303
イスラエル・ガザ人道危機救援金	11	55,500
2024 台湾東部沖地震救援金	41	2,629,385
レバノン人道危機救援金	5	6,038
計	106	3,106,226

イ 「海外たすけあい」運動

日本赤十字社はNHKとの共催により、「第42回海外たすけあい」キャンペーンを、12月1日から12月25日まで実施しました。佐賀県支部では12月14日（土）、12月21日（土）の2日間に県内延べ9カ所において赤十字奉仕団員、有功会員、青少年赤十字メンバー、企業の社員など約300名の参加を得て街頭募金活動を実施しました。

令和６年度の「海外たすけあい」では、本県で、4,739,130円、全国では約7億2千万円の寄付金が寄託され、世界各地の紛争や自然災害などで苦しむ人々のために活用されています。

「海外たすけあい」街頭募金活動の実績

会 場		実績額
佐賀市	J R 佐賀駅	42,541 円
	ゆめタウン佐賀	246,014 円
	イオン佐賀大和店	51,440 円
唐津市	イオン唐津店	57,719 円
武雄市	ゆめタウン武雄	58,873 円
鳥栖市	フレスポ鳥栖	87,938 円
	マックスバリュ鳥栖村田店	38,734 円
	JR 鳥栖駅	24,899 円
みやき町	ミスターマックス北茂安店	25,134 円
合 計		633,292 円



ウ 安否調査

日本赤十字社では、災害発生時や有事の際に在住・滞在する外国人の安否調査を赤十字国際委員会（ICRC）や各国の赤十字社と連携・協力して行い、そこで見つかった家族の再会（離散家族の再会）ができるようにしています。

このほかに、紛争などで連絡手段を絶たれた人々や抑留された人々がICRCを通じて離れた家族と交わす手紙（赤十字通信）を、日本国内に住む宛先人まで届けるなどの活動を行っています。

エ 国際活動にかかる支部等職員の事業地への出張について

日本赤十字社は、令和元年から国際赤十字・赤新月社連盟を通じてラオス赤十字社（以下ラオス赤）救急法普及事業の支援を開始し、心肺蘇生や止血、骨折の手当など、応急手当に必要な知識と技術を広めることで、ラオスの人々の健康で安全な暮らしを守ることを目指しています。

令和6年度、当県支部の職員が第2次支援における事業進捗状況の確認や高校で行われる講習をモニタリングするため首都ヴィエンチャン及びボケオ県ファイサイ郡に派遣されました。派遣された職員は、ラオス赤の講習内容や指導方法等についての助言や日本赤十字社が行う実技紹介を行うなど、主に技術支援にかかる業務を担当しました。



3 救急法等の講習普及

「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、県内各地でいのちを守り健康で安全に暮らすための知識や技術を伝える講習会を実施しました。

令和6年度は、「動画で見る一次救命処置」をはじめ動画教材などICTの活用を図るとともに、他団体と連携し、多様性社会に向けた講習指導について検討を行いました。

また、一般市民によるAEDの使用が解禁され20年の節目を迎える年となりました。AEDの講習については、よりAEDへの理解促進を図り、利用率向上に繋がるよう努めました。

さらに、地域包括ケア事業への取り組みとして、地域の『通いの場』の運営側や支援者への講習も引き続き実施しました。

（1）救急法

最新の国際的ガイドラインや指針に基づき、日常生活における事故防止や応急手当の基本、胸骨圧迫やAEDの使い方、災害時の心得などの知識と技術を習得できる講習会を、児童生徒から企業、地域住民まで幅広い対象に向けて実施しました。

また、救急法基礎講習の学科Web正式導入を見据え、令和5年度に引き続き学科Webを実施しました。（受講者数 4,096人）



救急法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救急法基礎講習 （学科Web）	17回 （うち2回）	472人	472人	472人
救急員養成講習	9回	204人	204人	204人
短期講習	69回	3,420人		

(2) 水上安全法

水の事故から尊い人命を守るために必要な泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法、着衣泳など、自分自身の安全を保ちながら、安心して水と楽しく関わるための知識と技術を普及しました。特に着衣泳は小・中学生対象に実施しました。

また、水上安全法普及体制の強化を図るため8年ぶりとなる指導員養成講習を開催し、新たに8名の指導員が誕生しました。
(受講者数 1,373人)



水上安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救助員Ⅱ養成講習	0回	大雨警報の可能性があったため中止		
指導員Ⅱ養成講習※	1回	8人	8人	8人
短期講習	26回(うち着衣泳24回)	1,365人		

※救助員講習を行うことのできる指導員の養成を行う講習

(3) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすために役立つ知識や、家庭や地域での高齢者支援に役立つ知識・技術の習得と実践を通して、健康維持・増進の思想と互いに助け合う心を育む講習を開催し、主に地域で高齢者支援を行うボランティアが参加されました。
(受講者数 144人)



健康生活支援講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	1回	5人	5人	5人
短期講習	4回	139人		

(4) 幼児安全法

子どもの尊い生命を守り、社会全体で子どもを大切に育てるために、事故予防とケガや病気の手当ての方法、救命手当などの知識や技術の普及を目的に、保護者や保育園・幼稚園の職員、地域の子育て支援サポーターを対象に実施しました。

(受講者数 653人)



幼児安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	1回	3人	3人	3人
短期講習	30回	650人		

(5) 講習資機材の貸し出し

心肺蘇生用人形及びAEDトレーナー 8回

(6) 指導員研修会

赤十字の各種講習は、講師が指導する指導員養成講習の検定に合格し、指導員資格を取得した多くのボランティアの活動により開催されています。指導員は、赤十字の協力者として、人のいのちと健康を守る方法を広く普及するための知識や技術を有しているだけでなく、講習を通じて赤十字そのものも普及推進します。毎年、赤十字講習の知識・技術・指導法の維持向上を目的とする指導員研修会を開催しています。

指導員研修会

期 日	研修名	会 場	参加者
10月12日	健康生活支援講習指導員伝達研修会	日本赤十字社 佐賀県支部	5人

指導員在籍状況

講習種別	ボランティア	支部	病院	血液センター	計
救急法指導員	60人	5人	5人	4人	74人
水上安全法指導員Ⅱ	29人	2人	2人	3人	36人
健康生活支援講習指導員	3人	1人	3人	1人	8人
幼児安全法指導員	17人	1人	1人	0人	19人

(7) 講師研修会

最新の講習教本および指導要領、今後の講習普及方針について理解を深め、講習の普及と指導員育成計画に役立てることを目的として開催されました。

講師在籍状況

講習種別	講師数
救急法	3人
水上安全法	1人
健康生活支援講習	2人
幼児安全法	2人

講師研修会参加状況

研修会名・会議名	開催形式	回数
救急法講師研修会	本社参集	1回
水上安全法講師研修会	本社参集	1回
健康生活支援講習講師研修会	本社参集	1回
幼児安全法講師研修会	本社参集	1回

(8) 地域包括ケア事業への参画

医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい生活が続けられるよう、地域で支える「地域包括ケア事業」。

全市町へのアンケート調査や訪問聞き取りに基づき、市町が行う『通いの場』に携わる人材育成のための研修会で『博愛のこころを未来へ～地域包括ケア参画事業』と題し赤十字講習を実施しました。



地域包括ケア参画事業実施状況（「通いの場」支援者養成等にかかる講習）

期 日	依頼元（講習種別）	会 場	参加者
5 月 24 日	嬉野市福祉課 （健康生活支援講習・防災セミナー）	嬉野市中央体育館	74 人
9 月 19 日	大町町福祉課 （救急法）	総合福祉保健センター美郷	22 人
11 月 14 日	上峰地区地域包括支援センター （健康生活支援講習・防災セミナー）	上峰町老人福祉センター	20 人

地域包括ケアにかかる本社主催会議参加状況

会議名	開催形式	回数
地域包括ケア担当国会議	Web 開催	1 回
地域包括ケア担当国会議	参集 （日本赤十字社本社）	1 回

(9) 多様性社会に向けた講習指導について

佐賀県国際交流協会の協力のもと、“やさしい日本語”の使い方や“やさしい日本語”を活用した心肺蘇生と AED の使い方について赤十字講習指導員と外国人留学生が意見交換を行いました。



期 日	協力団体	会 場	参加指導員
11 月 9 日	佐賀県国際交流協会	日本赤十字社佐賀県支部	25 人

4 赤十字奉仕団活動

赤十字奉仕団は、人道・博愛の赤十字精神のもとに赤十字の使命とする人道的諸活動を実践しようとする人々が集まって結成されたボランティア組織であり、災害救護支援、青少年赤十字活動、各種講習会の指導など様々な分野で活動を展開しました。

平成29年6月に設置された「佐賀県奉仕団委員長連絡会議」は、令和3年4月より「佐賀県赤十字奉仕団支部委員会」と名称を改め、奉仕団間の連携強化を図り、より主体的・積極的な活動の推進に努めています。

(1) 地域赤十字奉仕団

本県の地域赤十字奉仕団は、市地区・町分区において地域婦人会を中心に結成されており、災害が発生した場合には地域において機動的に救援活動等を行う重要な奉仕団です。

ア 結成状況

(令和7年3月31日現在)

団 名	団 数	団員数	委員長
佐賀県地域赤十字奉仕団	22 団	1,900 名	山口 七重

イ 一品供出金運動

災害等に遭われた被災者に救援の手を差し延べ生活再建を支援するため、救援資金として毎年団員一人当たり20円が拠出されています。

令和年度は下記のとおり、一品拠出金より日赤佐賀県支部に寄付されました。

・NHK海外たすけあい寄附金・・・・・・・・・・30,000円



NHK 佐賀放送局で行われたオープニングセレモニー①
(地域赤十字奉仕団の山口委員長による
NHK 海外たすけあい寄附金の贈呈)



NHK 佐賀放送局で行われたオープニングセレモニー②
(地域赤十字奉仕団の山口委員長による
NHK 海外たすけあい寄附金の贈呈)

(2) 青年赤十字奉仕団

若い力と行動力を社会に役立てようと学生等で結成された組織で、「防災/減災啓発」、「JRC 活動支援」、「その他奉仕活動」など、様々な活動を展開しています。

ア 結成状況

(令和7年3月31日現在)

団 名	団員数	委員長
佐賀県青年赤十字奉仕団	24 名	執行 亜由美



救急法指導員を取得した団員による講習会



「LGBTQ」に関する勉強会



防災教育事業指導者養成研修

(3) 特殊赤十字奉仕団

特殊赤十字奉仕団は、様々な専門技術を持つ人や、特定の奉仕活動を行おうと集まった人々によって組織されており、それぞれの特徴を生かした活動を実践しています。本県には9つの特殊奉仕団と、日赤本社が直轄する赤十字飛行隊佐賀県支隊があります。

ア 結成状況

(令和7年3月31日現在)

団 名	団員数	委員長
佐賀県赤十字救急法奉仕団	33 名	瀬戸 弘美
佐賀県赤十字水上安全奉仕団	22 名	佐藤 洋
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	13 名	牛草 達雄
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	53 名	夏秋 正倫
佐賀県赤十字看護奉仕団	22 名	門田 直子
佐賀県赤十字無線奉仕団	24 名	江口 信彦
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	19 名	一ノ瀬 安信
佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」	11 名	矢ヶ部 登志子
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	14 名	下村 京子
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	17 名	中村 展章

(4) 活動状況

ア ボランティアの育成

(ア) 支部または奉仕団主催研修会への参加

① 赤十字ボランティア基礎研修会

期 日	実施主体	会 場	参加者
5 月 25 日	青年奉仕団	日本赤十字社佐賀県支部	6 名
5 月 11 日	水上安全奉仕団	日本赤十字社佐賀県支部	8 名
6 月 7 日	ほっと	日本赤十字社佐賀県支部	10 名
8 月 31 日	飛行・無線・輸送・「しゃちの会」	日本赤十字社佐賀県支部	15 名

② 佐賀県赤十字奉仕団研修交流会（支部委員会との共催）

奉仕団間の協働や相互支援により各奉仕団の枠を超えた多角的な奉仕活動を展開し、奉仕活動の充実を図ることを目的に平成26年度より研修交流会を開催しています。

また、平成 29 年度より各奉仕団から実行委員を選出し、支部指導講師と実行委員により研修交流会の企画・運営を行っています。

令和 6 年度は日赤本社で開催された研修会に参加された方からの報告会やフィールドワーク（以下 FW）体験を行いました。

日 付	会議・研修名	会場	活動内容	参加人数
12 月 21 日	第 1 回実行委員会	日本赤十字社 佐賀県支部	内容検討、役割分担	8 名
1 月 11 日	第 8 回佐賀県赤十字 奉仕団研修交流会	日本赤十字社 佐賀県支部	本社研修報告会、FW	40 名



第 1 回実行委員会

③ 奉仕団機関誌「凌風丸」の発行

令和 4 年度より、支部委員会の活動の一環として標記機関誌を作成・発行しています。

令和 6 年度も引き続き発行し、第 8 回佐賀県赤十字奉仕団研修交流会の様子を紹介しました。



奉仕団研修交流会の活動の様子を紹介



第 8 回佐賀県赤十字奉仕団研交流会修
(集合写真)

④ 赤十字防災ボランティア研修会

期 日	内 容	会 場	参加者
8 月 31 日	日赤さが防災ボランティアセンター 設置運営訓練（応用編）	日本赤十字社 佐賀県支部	38 名

※令和 6 年度より①赤十字ボランティア基礎研修会にて基礎編の内容を取り入れています。

⑤ 支部指導講師打ち合わせ

期 日	内 容	会 場	参加者
2月13日	基礎研修会打ち合わせ 奉仕団研修交流会について	日本赤十字社佐賀県支部	5名

(イ) 赤十字ボランティア・リーダー研修会

期 日	会 場	参加者
8月24日 ～26日	日本赤十字社 本社	田辺 一郎（救急法奉仕団） 古賀 琴巳（青年赤十字奉仕団）
6月30日 7月26日	日本赤十字社本社	松崎 かめ代 （救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団） ※講師として事前準備会議参加
8月23日 ～26日	日本赤十字社 本社	松崎 かめ代 （救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団） ※講師として研修会参加

イ ボランティア関係行事

(ア) 支部または奉仕団主催行事

① 佐賀県支部

日 付	活 動	参加奉仕団	回数
12月1日 ～25日	海外たすけあい募金活動 （NHK 窓口受付業務）	救急法、看護、しゃちの会	15回
随時	各種赤十字講習普及・指導	救急法、水上安全、 幼児安全	143回
随時	防災セミナーの普及・指導	青年、救急法、水上安全、 幼児安全法、特殊輸送	7回※
随時	臨時救護	看護・輸送	5件
随時	支部内作業（広報紙仕分け）	しゃちの会	月1回

※支部職員が実施した回数を除いています



NHK 佐賀放送局特設窓口



防災セミナー（博愛の里こども園）

② 地域赤十字奉仕団

日 付	主催者	会 場	活動内容	参加者
5月24日	佐賀県地域婦人 連絡協議会	婦人会館	「令和6年度能登半島地震災害」 救護活動報会	66名
3月3日	佐賀県地域婦人 連絡協議会	熊本県防災 センター	熊本県防災センター視察研修	35名

③ 青年赤十字奉仕団

日 付	主催者	会 場	活動内容	受講者
4月7日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	役員会	6名
5月25日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	総会・基礎研修会	10名
6月12日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	救急法基礎講習	8名
7月15日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	VS説明会、事前準備	5名
7月26日～27日29日 ～31日 8月1日～2日	日本赤十字社 佐賀県支部	支部 北山少年自然の家	青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニングセンター (小・中・高)	5名
8月17日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	LGBTQ勉強会	5名
9月21日	日本赤十字社 佐賀県支部	日本赤十字社 佐賀県支部	VS反省会	5名
11月4日	佐賀市	嘉瀬川	佐賀インターナショナル・バルーンフェ スティバル清掃活 (台風接近のため中止)	-名
12月14日、21日	日本赤十字社 佐賀県支部	佐賀県内各地	NHK海外たすけあい 街頭募金	7名
3月22日	佐賀市	佐賀城周辺	桜マラソン清掃活動	2名
随時	青少年赤十字高校 メンバー協議会	日本赤十字社 佐賀県支部	定例会サポート	9名

④ 特殊奉仕団

日 付	主催者	会 場	活動内容
随時	ほっと	県内3施設	介護施設等におけるケア
随時	特殊輸送	日本赤十字社 佐賀県支部	車両整備、タイヤ交換

⑤ 佐賀県赤十字奉仕団支部委員会

日 付	会 場	内 容
3月16日	日本赤十字社佐賀県支部	総会
6月22日	日本赤十字社佐賀県支部	第1回役員会
12月14日、21日	佐賀県内各地会場	NHK 海外たすけあい街頭募金
日 付	会 場	内 容
2月19日	日本赤十字社佐賀県支部	第2回役員会
3月15日	日本赤十字社佐賀県支部	総会

(イ) ブロック主催行事

第6ブロック奉仕団委員長並びに支部担当課長会議

期 日	開催形態	参加者
1月21日	Web 会議	瀬戸 弘美 委員長

(ウ) 本社主催行事等

赤十字奉仕団中央委員会

期 日	会 場	参加者	
5月30日 ～31日	日本赤十字社本社	瀬戸 弘美	佐賀県赤十字奉仕団支部委員会 委員長 佐賀県赤十字救急法奉仕団 委員長

ウ その他

(ア) 佐賀県支部赤十字奉仕団指導講師 委嘱

指導講師名	所属奉仕団	委嘱年度
牛草 達雄	救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H26 年度
鈴木 容子	看護奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H29 年度
松崎 かめ代	救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H29 年度
夏秋 正倫	青少年赤十字賛助奉仕団	H30 年度
秋山 芳美	青少年赤十字賛助奉仕団	R 元年度

(5) 奉仕者功労表彰

ア 日本赤十字社表彰

平成24年度九州八県赤十字大会を当県支部が開催したことを契機に、毎年度永年赤十字活動に尽力され、功績のあった奉仕者を表彰しています。

令和 6 年度 奉仕者功労 日本赤十字社表彰者数

奉 仕 団 名	金 色 有功章 (20 年以上)	銀 色 有功章 (15 年以上)	支部長 感謝状 (10 年以上)	支部長 感謝状 (5 年以上)	計
佐賀県地域赤十字奉仕団	0	12	0	0	12
佐賀県青年赤十字奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字救急法奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字水上安全奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字看護奉仕団	0	0	0	2	2
佐賀県赤十字無線奉仕団	0	1	0	0	1
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	0	0	0	1	1
佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」	0	1	0	1	2
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	0	0	1	0	1
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	0	0	0	0	0
計	0	14	1	4	19

イ 県政功労者 佐賀県知事表彰

(ア) 種 別 福祉・保健衛生功労

(イ) 受章者 門田 直子 (佐賀県赤十字看護奉仕団 委員長)

池上 美智子 (佐賀県赤十字看護奉仕団 委員長)

5 青少年赤十字（JRC）の活動

青少年赤十字活動は、幼稚園・保育園、小・中・高等学校・特別支援学校の児童生徒が、学校教育や日常生活の中で赤十字精神を身につけ、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう実践と体験を基にした学習を学校や地域において実践しています。

《態度目標》

「気づき・考え・実行する」

《3つの実践目標》

- ・生命と健康を大切にする（健康・安全）
- ・人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する（奉仕）
- ・広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う（国際理解・親善）

青少年赤十字活動は、県・市町の教育委員会、青少年赤十字加盟校で構成する青少年赤十字指導者協議会、青少年赤十字賛助奉仕団、青年赤十字奉仕団との一体的取り組みにより行われています。

加盟校の児童生徒を対象にした青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター、教職員を対象とした青少年赤十字指導者育成研修会、青少年赤十字指導者協議会の役員を対象とした理事研究会、加盟校長を対象にした青少年赤十字加盟校長等研修会など、活動内容や日程を十分に検討し開催しました。



出前講座「ためになる！青少年赤十字
防災学習～防災講座：基礎編～」



中学校トレセン：「リーダーシップとは」



JRC登録式：博愛の里こども園

（1）青少年赤十字加盟校の構成

ア 登録状況

（令和7年3月31日現在）

校 種	加盟校数(校・園)	メンバー数	指導者数
幼稚園・保育園	14	1,377	401
小 学 校	121	29,360	2,286
中 学 校	77	20,796	1,586
義務教育学校	6	2,178	140
高 等 学 校	33	10,313	860
特別支援学校	5	466	206
専修学校	2	25	4
合 計	258	64,515	5,483

※小・中・高校のJRC加盟校は、全体の約82%

イ 青少年赤十字加盟校一覧

(令和7年3月31日現在)

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・ 特別支援学校等	計
佐 賀 市	博愛の里こども園、 本庄幼稚園、鍋島幼稚園、 嘉瀬保育園、高岸幼稚園、 にじのはねこども園、 新栄、思斉、中川副、 大詫間、南川副、西川副、 東与賀、久保泉、佐大附属、 富士、若楠、諸富北、 北山東部、本庄、巨勢、 日新、諸富南、三瀬、嘉瀬、 高木瀬、西与賀、松梅、 勸興、赤松、鍋島、開成 北川副	佐大附属、城南、 昭栄、城東、金泉、 諸富、富士、三瀬、 大和、川副、城北、 東与賀、佐賀清和、 鍋島、松梅、思斉、 弘学館、龍谷、成穎	佐賀東、 佐賀工業、龍谷、 北陵、佐賀北、 佐賀女子、 佐賀学園、 佐賀商業、 高志館、 致遠館、佐賀西、 清和、弘学館、 盲学校佐賀大和特支、 星生学園 九州国際高等学園 附属特別支援学校 金立特別支援学校	71
唐 津 市	すみれ幼稚園、 大良、平原、成和、湊、馬渡、 呼子、外町、長松、久里、切木、 大志、佐志、玉島、竹木場、 北波多、浜崎、西唐津、東唐津、 相知、小川、七山、鏡山、肥前	第一、鏡、鬼塚、佐志、 相知、肥前、七山、 西唐津、馬渡、小川、 高峰、海青、第五、 厳木、浜玉、湊、 唐津東	唐津東、唐津南、 唐津西、厳木 唐津商業	46
鳥 栖 市	虹の子保育園、レインボー保育園、 あいりす保育園、神辺幼稚園、 鳥栖ルビニ幼稚園、 基里、田代、若葉、弥生が丘、 麓、鳥栖北、旭、鳥栖	基里、田代、鳥栖西、 鳥栖、香楠	鳥栖、鳥栖商	20
多 久 市	ひしのみこども園	西溪校、中央校、 東部校(義務教育学校)	多久	5
伊 万 里 市	黒川、松浦、波多津、立花、 山代東、牧島、山代西、二里、 伊万里、大川内、大川、大坪	青嶺、山代、国見、 啓成、東陵、伊万里、 南波多郷学館 (義務教育学校)	敬徳	20
武 雄 市	北方、西川登、朝日、若木、 山内東、武内、武雄、橘	山内、武雄、北方、 武雄青陵、川登、 武雄北	武雄	15
鹿 島 市	鹿島、七浦、浜、能古見、 明倫、北鹿島、古枝	東部、西部	鹿島	10
小 城 市	芦刈、岩松、桜岡、晴田、 砥川、牛津、三日月、三里	小城、牛津、芦刈、 三日月	牛津	13
嬉 野 市	吉田、大草野、轟、久間、 嬉野	吉田、塩田	嬉野	8
神 埼 市	神埼、脊振、西郷、仁比山、 千代田西部、千代田中部、 千代田東部、 サールナートこども園	神埼、千代田、脊振	神埼、神埼清明	13

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・ 特別支援学校等	計
三養基郡	北茂安、三根西、三根東、 中原、上峰、若基、基山 7	三根、上峰、北茂安、 中原、基山 5	三養基、 中原特別支援 2	14
神 埼 郡	三田川、東脊振 2	三田川、東脊振 2	0	4
東松浦郡		玄海みらい学園 (義務教育学校) 1	唐津青翔 1	2
西松浦郡	大山 1	有田、西有田 2	0	3
杵 島 郡	六角、白石、有明東、江北 4	白石、江北、 大町ひじり学園 (義務教育学校) 3	白石、佐賀農業 2	9
藤 津 郡	大浦、多良 2	大浦、多良 2	太良 1	5
計	幼・保 14 小学校 121	義務教育学校 6 中学校 77	特別支援 5 高校 35	258

※ … 令和6年度 新規加盟校9校（こども園：1園）（小学校：5校）（中学校：1校）
（特別支援学校：2校）

※脱退5校：唐津特別支援学校好学舎分校・鬼塚小・大野原小・中・有田中部小

ウ 青少年赤十字加盟登録式

青少年赤十字メンバーとしての意識を高めるための加盟登録式は、こども園1園、小学校1校、中学校5校、小中一貫1校、高校1校の9件の依頼に対応し、講師派遣を行いました。

（２）活動状況

ア 指導者対象

（ア）全国青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンター指導者養成講習会

- ・開 催 日 5月31日（金）～6月2日（日）
- ・場 所 国立オリンピック記念センター
- ・参 加 者 増田光司（田代小学校教諭／指導者協議会幹事）
黒川 航（日本赤十字社佐賀県支部事業推進課主事）

（イ）指導主事対象青少年赤十字研究会

- ・開 催 日 1月10日（金）
- ・場 所 日赤本社
- ・参 加 者 落合由美子（佐賀県教育員会事務局学校教育課指導主事）
青木 翔史（西部教育事務所指導主事）

（ウ）九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会（長崎県主催）

- ・開 催 日 8月19日（日）20日（月）
- ・場 所 長崎県大浦小学校
- ・参 加 者 開田皐月（外町小学校教諭／今年度 JRC 指導者育成研修会受講者）

（エ）佐賀県青少年赤十字指導者育成研修会

- ・開 催 日 7月5日（金）～6日（土）
- ・場 所 1日目：四季彩ホテル「千代田館」2日目：日赤佐賀県支部
- ・参 加 者 6名（男3名・女3名）
内訳：小学校2名・中学校1名・義務教育学校1名・高校1名・特別支援学校1名

(オ) 全国指導者協議会総会（本社）

- ・開催日 7月12日（金）
- ・場所 日赤本社
- ・参加者 宮原 孝子（開成小学校長／指導者協議会会長）

(カ) 九州ブロック青少年赤十字指導者協議会会長並びに支部担当者会議（長崎県）Web 開催

- ・開催日 2月19日（水）
- ・場所 日赤佐賀県支部
- ・参加者 宮原 孝子（開成小学校長／指導者協議会会長）他 支部職2名

(キ) 青少年赤十字指導者中央講習（本社）

- ・開催日 11月4日（月）
- ・場所 日赤本社
- ・参加者 石井 彩（千代田中部小学校教諭／指導者協議会幹事）

(ク) 佐賀県指導者協議会役員会（第1回）

- ・開催日 5月16日（木）
- ・場所 メートプラザ佐賀
- ・参加者数 30名

(ケ) 佐賀県指導者協議会総会並びに研修会

- ・開催日 5月16日（木）
- ・場所 メートプラザ佐賀
- ・参加者数 126名

(コ) 佐賀県指導者協議会役員会（第2回）

- ・開催日 2月18日（火）
- ・場所 日赤佐賀県支部
- ・参加者数 31名

(サ) 佐賀県青少年赤十字指導者協議会 第7回理事研究会 web 開催

- ・開催日 6月13日（木）
- ・場所 日赤佐賀県支部より配信
- ・参加者数 11名

(シ) 佐賀県青少年赤十字加盟校長等研修会

青少年赤十字指導者協議会の主体化及び組織強化のため研修内容の充実を図っています。令和6年度は、防災に特化した研修会を開催しました。

- ・開催日 10月22日（木）
- ・場所 メートプラザ佐賀
- ・参加者数 167名



研修Ⅰ「青少年赤十字と学校教育」



研修Ⅱ「私の学校の防災アクション」



研修Ⅲ「KAG 体験」

イ メンバー対象

(ア) 青少年赤十字スタディー・センター（本社主催）

- ・開催日 3月22日（土）～3月26日（水）4泊5日
- ・場所 山梨県東照館
- ・参加者 中村 柑菜（県立神埼高校）
境 美侑（佐賀女子高等学校）
- ・指導スタッフ 荒巻 亘（佐賀女子高等学校教諭／指導者協議会幹事）

(イ) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターの実施

<小学校の部>

- ・開催日 7月30日（火）～7月31日（水）1泊2日
- ・場所 北山少年自然の家
- ・参加者数 16名
- ・3年経験者研修として1名スタッフとして参加（石丸紗矢佳教諭：嘉瀬小学校）

<中学校の部>

- ・開催日 7月25日（木）リモートトレセン
8月1日（木）～8月2日（金）
- ・場所 北山少年自然の家
- ・参加者数 41名

<高等学校の部>

- ・開催日 7月26日（金）日帰り（1日目）
7月27日（土）日帰り（2日目）
- ・場所 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館（1日目）
日赤佐賀県支部（2日目）
- ・参加者数 17名

(ウ) 博愛フェスタ 2024 での博愛発表会

- ・開催日 12月15日（日）
- ・場所 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館
- ・発表校 諸富北小学校、川副中学校、高志館高等学校

(エ) 国内交流（千葉県JRCと中川副小学校との交流会）

- ・開催日 12月13日（金）
- ・場所 中川副小学校
- ・参加者 中川副小学校5年生・千葉県JRCメンバー8名
- ・交流内容 各県の特徴紹介、それぞれのJRC活動の紹介

(オ) 優良メンバー、グループ表彰

青少年赤十字活動が特に顕著であった学校に対し、各学校長の推薦により、今年度は下記メンバー及びグループを表彰しました。

<優良メンバー表彰> 6名

氏 名	学 校 名	氏 名	学 校 名
永田佐和子	唐津市立外町小学校	平田 悠貴	唐津市立外町小学校
古里 菜穂	神崎市立脊振中学校	田中 佑奈	県立致遠館高等学校
高尾 美月	佐賀女子高等学校	岸川 純奈	佐賀女子高等学校

<優良グループ表彰> 5団体

グループ名	グループ名
外町小学校ボランティア委員会	脊振中学校生徒会
思斉中学校生徒会	基里中学校生徒会
多久高等学校 JRC 部 3 年生	

(カ) JRC 高校メンバー協議会活動 (月定例会の活動)

高校メンバー協議会は、月 1 回佐賀県支部等において定例会を開催し、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」などの活動を自分たちで企画運営しています。



5 月：「手話教室」



6 月：「ペーパータワー」



6 月：「熱中症の応急処置」



6 月：「救急法の体験」



9 月：「義援金・救援金」



9 月：「義援金・救援金」



9 月：「防災バックの中身は」



10 月：JRC 活動紹介



10 月：役員改選



12 月：年間計画づくり



1 月：応急手当



1 月：応急手当

ウ その他の活動

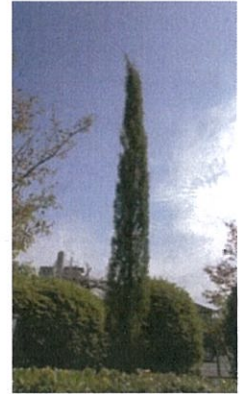
(ア) 青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状の贈呈（10年・5年）

10月22日にメートプラザ佐賀で開催しました青少年赤十字加盟校長等研修会において、青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状の贈呈を行いました。

- ① 10年以上 継続校（園）19校
- ② 5年～9年 継続校（園）3校

(イ) 青少年赤十字賛助奉仕団による加盟校に対する「イトスギ」贈呈

青少年赤十字加盟校長等研修会時において、加盟校に対し賛助奉仕団が育苗した「イトスギ」の贈呈を行いました。「イトスギ」は赤十字・青少年赤十字のシンボルツリーであり、県内で加盟歴の長い学校から順に、平成24年度より贈呈を行っています。



○「イトスギ」贈呈校

- ① 江北町立江北小学校 ② 鳥栖市立旭小学校
- ③ 武雄市立朝日小学校 ④ 佐賀市立勸興小学校
- ⑤ 嬉野市立塩田中学校

(ウ) 青少年赤十字防災教育講話 40件

① ためになる！青少年赤十字防災学習

1	千代田中部小学校(垂直避難訓練)	21	敬徳高等学校(土砂災害避難訓練)
2	千代田中部小学校6年生(防災講話：地震)	22	本庄こども園(地震避難訓練)
3	千代田中部小学校(日曜参観防災講話：水害)	23	サールナートこども園「防災の日」垂直避難・防災講話
4	千代田西部小PTA(災害食づくり、KAG体験)	24	田代小学校4年生と民生委員(グループワーク)
5	千代田東部小学校PTA(防災講話：水害)	25	中原小学校4年生と民生委員(グループワーク)
6	千代田中学校(垂直避難訓練)	26	北茂安小学校4年生と民生委員(グループワーク)
7	千代田中学校1年生(災害時シミュレーション体験)	27	三根東/西小学校4年生と民生委員(グループワーク)
8	鹿島西部中学校(防災講話：水害)	28	諸富北小3年PTA(災害食づくり・新聞紙活用)
9	若木小学校4年生(災害食づくり、水害講話)	29	国見中学校1年生(防災講座① 基礎編)
10	鹿島小学校(地震避難訓練)	30	国見中学校1年生(防災講座② 応用編)
11	西有田中学校(防災講話：水害)	31	国見中学校1年生(防災講座③ 実技編)
12	大草野小学校(地震火災避難訓練)	32	附属小学校6年PTA(親子グループワーク)
13	江北小学校4年生(災害食づくり、おうちのキケン)	33	赤松小学校6年PTA(親子グループワーク)
14	旭小学校3年生(おうちのキケン)	34	赤松小学校(地震津波火災避難訓練)
15	朝日小学校4年1組(災害食づくり、水害講話)	35	博愛の里こども園(きけん はっけん)
16	朝日小学校4年2組(災害食づくり、水害講話)	36	県教育センター防災講座
17	朝日小学校5年1組(災害食づくり、水害講話)	37	日赤探検隊(グループワーク・災害食づくり)
18	朝日小学校5年2組(災害食づくり、水害講話)	38	附属特別支援学校高等部3年生(支部見学、救援物資・非常持ち出し品)
19	朝日小学校6年1組(災害食づくり、水害講話)	39	青少年赤十字加盟校長等研修会(わが校の防災アクション・KAG体験)
20	朝日小学校6年2組(災害食づくり、水害講話)	40	博愛フェスタ2024JRC発表会における防災セミナー

(エ) 青少年赤十字講話 9校（1校は、挨拶：佐賀女子高校）

① JRC講話（三田川中学校登録式）（東脊振中学校登録式）

（博愛の里こども園登録式）（三瀬小・中学校登録式）

（諸富北小学校登録式）（北茂安中学校）（脊振中学校）（千代田中学校）

(オ) 県教育センター講座「学校防災講座」参加者 32 名・支部より指導者派遣

(カ) 学校安全総合支援事業

佐賀県教育委員会が文部科学省の委託を受けて、自然災害や交通事故に対しての安全教育を推進する取り組みに、推進委員および学校安全アドバイザーとして関わりました。

学校安全総合支援事業実施状況

会 場	実施日	内 容
千代田中学校	6 月 19 日 (水)	実践委員会への参加
西唐津中学校	7 月 12 日 (金)	実践委員会への参加
千代田中学校	12 月 17 日 (火)	実践委員会への参加
西唐津中学校	12 月 27 日 (金)	実践委員会への参加
旧自治会館	2 月 18 日 (火)	実践委員会への参加
千代田中部小学校	5 月 22 日 (水)	垂直避難訓練・防災講話
千代田中部小学校	6 月 4 日 (火)	6 年生へ防災講話 (地震)
千代田中部小学校	6 月 16 日 (日)	保護者へ防災講話 (水害)
千代田中学校	6 月 18 日 (火)	垂直避難訓練・防災講話
千代田西部小学校	11 月 16 日 (土)	保護者へ災害食づくり・KAG
西唐津中学校	11 月 7 日 (木)	救急法 (心肺蘇生・AED 体験)
千代田中学校	11 月 29 日 (金)	1 年生へ災害時シミュレーション
千代田東部小学校	11 月 30 日 (土)	保護者へ防災講話 (水害)

(キ) 青少年赤十字加盟校等で行われた義援金・救援金募集 (支部扱い分)

(令和 7 年 3 月末現在)

内 訳	件 数	金 額 (円)
令和 6 年能登半島地震災害義援金	28	522,695
令和 6 年 9 月能登半島大雨災害義援金	6	116,902
令和 7 年大船渡市赤崎町林野火災義援金	2	20,183
ウクライナ人道危機救援金	1	12,958
2024 年台湾東部沖地震救援金	1	13,051
合 計	38	665,606

6 赤十字思想の普及と広報活動

(1) 令和6年全国赤十字大会

5月15日(水)、明治神宮会館(東京都渋谷区)において、令和6年全国赤十字大会が、日本赤十字社名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁各宮妃殿下のご臨席のもとに、開催されました。佐賀県からは17名が参会しました。

(2) 令和6年度九州八県赤十字大会

12月17日、九州八県支部が持ち回りで開催している九州八県赤十字大会が、ヒルトン福岡シーホーク(福岡県福岡市)において開催されました。受章(彰)者104名を含む赤十字関係者等約680名が参加しました。第2部のアトラクションとして、西区フィルハーモニーオーケストラの演奏による須貝クラシックバレエスタジオの公演が披露されました。

金色有功章個人4人、同法人1社、銀色有功章法人5社、日本赤十字社感謝状個人1人、同法人5社が本大会にて受章(彰)されました。これを含む佐賀県参会者は、特別社員(会員)、地区区分関係、ボランティアなど計44名でした。

佐賀県内の全受章(彰)者は以下のとおりです。(敬称略、順不同)

ア 日本赤十字社感謝状(金色有功章後の社資功労)

個人	福山 つや子 (佐賀市)	
	古賀 常次郎 (佐賀市)	
	嬉野 政則 (佐賀市)	
法人	久光製薬 株式会社 (鳥栖市)	松尾建設 株式会社 (佐賀市)
	田口電機工業 株式会社 (基山町)	株式会社 アルミス (鳥栖市)
	株式会社 成富建設 (嬉野市)	株式会社 サガハツ (佐賀市)
	地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館 (佐賀市)	
	佐賀県有明海漁業協同組合 (佐賀市)	
	株式会社 共栄ビルパートナーズ (福岡市)	
	有限会社 大町自動車学校 (大町町)	

イ 金色有功章(社資功労・役職功労)

個人	田崎 義博 (嬉野市)	
	加藤 美穂 (佐賀市)	
	沖田 信光 (佐賀市)	
	鳥羽 かおる (伊万里市)	
法人団体	株式会社 中村電機製作所 (佐賀市)	
	佐賀県立三養基高等学校 PTA (みやき町)	

ウ 銀色有功章（社資功労・役職功労）

個人	副島 さゆり （佐賀市）	辻田 信彦 （佐賀市）
	松本 範順 （唐津市）	肥後 成人 （千葉県）
	鈴木 智也 （東京都）	松尾 良介 （大阪府）
	森崎 亜紀子 （みやき町）	
法人・団体	大坪製菓 株式会社 （佐賀市）	
	株式会社 佐賀新聞タウンメディア （佐賀市）	
	小笠原長春窯 （伊万里市）	
	株式会社 水城電気 （鹿島市）	
	丸東産業 株式会社 （福岡県小郡市）	
	みやき町立三根東小学校 （みやき町）	

（３）佐野祭

佐野常民初代社長の命日にあたる 12 月 7 日に、佐賀市川副町早津江の生誕地において、佐野常民顕彰会の主催により遺徳を顕彰する佐野祭が執り行われました。

この慰霊祭には、佐野常民顕彰会並びに赤十字有功会、赤十字施設幹部職員などの赤十字関係者と地元有志など約 60 人が参加しました。



佐野祭の様子

（４）博愛フェスタ 2024

12 月 1 日から 15 日までの期間、「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」において、博愛精神の普及と啓発を目的として、佐賀市、佐賀市教育委員会、佐野常民顕彰会、日本赤十字社佐賀県支部の共催による「博愛フェスタ 2024」が開催されました。

令和 6 年度よりイベントスケジュールの見直しが行われ、当支部ではフェスタ最終日にて防災セミナーを行いました。このフェスタの中心事業として行なわれた「第 21 回全国博愛絵画展」では、博愛大賞に原口琴さん（佐賀市立小中一貫校思斉館小学部 6 年生）の『心晴れやか紫陽花手水（太宰府天満宮）』が選ばれました。入賞者の作品は期間中、歴史館に展示されました。

（５）防災・減災プロジェクト「ACTION!防災・減災」

日本赤十字社では毎年 3 月に、過去の災害の教訓を忘れることなく、将来起きる災害に対する防災・減災意識の向上を目指し、「私たちは忘れない」キャンペーンを実施してきました。

また、東日本大震災から 13 年が経ち、これまでの災害から得た教訓を「わすれない」から一歩進んで、一人でも多くの方に防災・減災に関する「アクション」を起こしていただくことを目指し、令和 2 年度からは、プロジェクト名を新たに「ACTION!防災・減災」として実施しています。主な内容として、本社作成ポスターを活用した広報活動や、公式 SNS での投稿により防災・減災への意識向上を広く県民に対し呼びかけを行いました。

また、県内企業 1 社からは、この活動にご賛同いただき、災害救護等の活動費を含む日赤の活動資金へのご寄付をいただきました。

(6) 世界赤十字デー記念イベント

赤十字の創始者であるアンリー・デュナンの生誕日5月8日の「世界赤十字デー」には、毎年全国各地で様々なイベントが行われています。佐賀県支部では、5月に広報活動を集中して実施しました。

(7) その他の広報活動

赤十字思想の普及、事業の紹介及び周知を図るため、次の広報活動を実施しました。

ア 広報誌等の発行

支部の事業活動を広く県民に知ってもらうため、広報チラシ 346,500 部を作成し、5月の赤十字運動月間中に県下ほぼ全世帯に配布しました。

また、支部発行の機関紙「赤十字さが」90号（春号）を17,000部、91号（秋号）を15,000部作成し、地区・分区を通じ回覧するとともに、有功会会員はじめ赤十字関係者に配布しました。

本社の発行物として、「赤十字 NEWS（新聞）」1,600部を毎月赤十字関係者に配布し、年2回発行の広報誌「Cross com-BOOK」を会員全員に発送しました。また、本社制作の赤十字運動月間用の広報ポスターやリーフレットを各地区・分区や県内赤十字施設に配布しました。



『赤十字さが』



赤十字NEWS(新聞)



5月運動月間広報ポスター

イ 赤十字白い羽根シール

小、中、高等学校の児童・生徒に赤十字についての理解を深めてもらうため、「赤十字白い羽根シール」を作成し、5月の赤十字運動月間前に配布しました。

ウ プレスリリース・寄稿

新聞、テレビ、ラジオなどの報道機関に対しては、災害時の救護活動情報や義援金・救援金受付や贈呈式の情報の他、海外たすけあい募金の実施に際し、プレスリリースを送付し、随時取材依頼を行いました。

また、令和6年度も引き続き佐賀新聞の防災企画「防災さが」の紙面において、防災・減災に関することを中心に『日赤通信～「いのち」をまもろう～』と題したコラムを月1回掲載しました。

佐賀新聞『日赤通信～「いのち」をまもろう～』の記事の内容

掲載月	テーマ
5月	地震対策 ～準備と知識が鍵、万全の備えを～
6月	大雨対策 ～「早めに」「安全な場所へ」「避難する」～
7月	日頃の備え ～住んでいる地域を知ろう～
8月	災害時の安否確認 ～日頃から家族で話し合いを～

9月	地域の力、共助 ～ご近所との日頃の付き合い重要～
10月	避難生活 ～心構えや準備、事前に話し合おう～
11月	ローリングストック ～使った分だけ買い足して備蓄～
12月	地域のリーダー ～災害時の助け合いに不可欠な存在～
1月	復興・復旧 ～震災を風化させない～
2月	災害ボランティア ～発災直後から復興まで幅広く活動～
3月	備えを再確認 ～新年度の準備と一緒に～

エ 事業紹介等パネルの活用

赤十字運動月間や地区・分区並びに青少年赤十字加盟校における行事等の際に、支部で作成したパネルを積極的に貸出・展示し、活用しました。

オ ホームページでの情報発信

日本赤十字社佐賀県支部ホームページにて、支部の活動報告の記事を積極的に発信し、12ヶ月で34件掲載しました。

カ 3施設合同 Instagram

佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの3施設合同で運用を行っている『3施設合同 Instagram』では、各施設の活動について最新の情報を発信し、日赤への関心向上に努めました。令和7年3月13日時点でフォロワー数は1,000人を超えました。



キ 3施設合同広報委員会

佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの若手の職員で構成する3施設合同広報委員会を隔月開催しました。

ク 5月の赤十字運動月間イベント

佐賀県庁において「懸垂幕の掲示」「パネル展示」「広報ビデオの上映」を実施し、赤十字の活動を県民の皆様様に周知しました。また、久光製薬株式会社並びに唐津市近代図書館、佐賀メディカルセンタービルにご協力いただき、赤十字レッドライトアップを行いました。



懸垂幕の掲示（佐賀県庁）



レッドライトアップ
（佐賀メディカルセンタービル）

7 赤十字会員及び活動資金の増強

(1) 会員数

一定の会費を納めていただいた会員数は、次のとおりです。

(各年度末現在)

区 分	令和6年度			令和5年度			増減(計)	
	個人	法人	計	個人	法人	計	個人	法人
会 員※1	1,620	665	2,285	1,317	635	1,952	303	30
協力会員※2	215,755	0	215,755	223,431	11	223,442	△7,676	△11
合 計	217,375	665	218,040	224,748	646	225,394	△7,373	19

※1 年額2,000円以上の会費を当該年度または前年度にお寄せいただいた個人・法人

※2 目安として年額500円以上2,000円未満の会費を当該年度にお寄せいただいた個人・法人

(2) 有功章社員数及び特別社員数

これまでに有功章及び特別社員章を受章(彰)された方は、次のとおりです。なお、有功章受章(彰)者(個人・法人)は、(1)※1にかかわらず、現「会員」資格を有します。

(令和7年3月31日現在)

区 分	個人	法人	計	令和6年度新規受章(彰)者	
				個人	法人
金色有功章社員※3	232	238	470	6	2
銀色有功章社員※4	386	513	899	11	6
特 別 社 員※5	3,957	1,438	5,395	46	16

※3 総額50万円以上の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人及び役職功労者

※4 総額20万円以上50万円未満の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人及び役職功労者

※5 これまでに総額2万円以上20万円未満の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人

(3) 赤十字会員増強運動

日本赤十字社はその活動理念である人道的使命を達成するために、国の内外において積極的に活動を展開し、毎年着実にその成果をあげていますが、赤十字の多岐にわたる事業活動は、会員をはじめ、県民が拠出する「活動資金」によって支えられています。会員組織の拡充強化は赤十字事業の普及と発展をもたらす最大の原動力であるので、日本赤十字社の事業について一層の理解と協力を図る必要があります。

このため、赤十字会員募集は年間を通じて行っていますが、特に、5月を「赤十字会員増強運動月間」として、地区・分区並びに地域の奉仕者をはじめ自治会や町内会など関係各位の協力を得て、会員の確保、活動資金の増強に努めました。

ア 地区・分区事務長会議

(ア) 第1回 地区・分区事務長会議

・日時：令和6年7月18日(木)

・場所：日本赤十字社佐賀県支部 会議室

令和5年度の事業報告及び一般会計歳入歳出決算について説明を行いました。



(イ) 第2回 地区・分区事務長会議

・日時：令和7年3月13日（木）

・場所：日本赤十字社佐賀県支部 会議室

令和7年度事業計画、令和7年度一般会計歳入歳出予算等について説明を行いました。

(4) 令和6年度活動資金募集実績

ア 総括表

(令和7年3月31日現在) 単位：円

区 分	令和5年度(A)	令和6年度(B)	B/A %
一 般 社 資	139,622,543	153,927,019	110.2
支部扱	39,385,336	56,166,379	142.6
一 般	38,855,336	14,965,879	38.5
使途指定	530,000	41,200,500	7773.7
地区分区扱	100,237,207	97,760,640	97.5
法 人 社 資	38,741,670	16,807,699	43.4
支部扱	37,361,723	15,920,409	42.6
一 般	27,261,723	15,820,409	58.0
使途指定	10,100,000	100,000	1.0
地区分区扱	1,379,947	887,290	64.3
合 計	178,364,213	170,734,718	95.7
※使途指定を除く	167,734,213	129,434,218	77.2

※ 使途指定：唐津赤十字病院並びに佐賀県赤十字血液センターに対する医療機器等整備のための特定寄付金

イ 支部、地区分區別実績一覧

	市町名	対象世帯 ①	令和6年度目標額 (①×600円) 千円未満四捨五入	実 績 額(円)				前年度実績 (円)
			一般 ②	法人 ③	計 ②+③	前年度 比(%)	金額	
支 部 扱	個人		9,500,000	56,166,379		56,166,379	142.6	39,385,336
	法人		13,557,000		15,920,409	15,920,409	42.6	37,361,723
	計 A		23,057,000	56,166,379	15,920,409	72,086,788	93.9	76,747,059
地 区 分 区 扱	佐賀市	65,606	39,364,000	19,038,726		19,038,726	98.6	19,318,749
	唐津市	31,134	18,680,000	10,751,113	28,799	10,779,912	90.2	11,956,606
	鳥栖市	22,016	13,210,000	6,267,000		6,267,000	91.9	6,820,500
	多久市	5,072	3,043,000	3,196,268		3,196,268	99.0	3,229,510
	伊万里市	14,375	8,625,000	5,167,250		5,167,250	99.1	5,213,238
	武雄市	13,571	8,143,000	8,577,561	9,478	8,587,039	100.4	8,549,658
	鹿島市	7,793	4,676,000	4,449,630		4,449,630	92.8	4,797,250
	小城市	12,864	7,718,000	7,329,807		7,329,807	98.4	7,452,507
	嬉野市	6,766	4,060,000	3,492,000	330,013	3,822,013	85.5	4,471,000
	神埼市	8,935	5,361,000	5,660,800		5,660,800	107.7	5,257,400
	市地区計 a	188,132	112,880,000	73,930,155	368,290	74,298,445	96.4	77,066,418
	吉野ヶ里町	4,655	2,793,000	2,577,900		2,577,900	101.0	2,553,000
	基山町	5,375	3,225,000	2,705,200	200,000	2,905,200	100.4	2,892,600
	みやき町	7,315	4,389,000	4,989,400		4,989,400	100.2	4,980,100
	上峰町	2,792	1,675,000	1,802,400		1,802,400	101.0	1,785,200
	中部管内計	20,137	12,082,000	12,074,900	200,000	12,274,900	100.5	12,210,900
	玄海町	1,344	806,000	823,800		823,800	97.6	844,126
	北部管内計	1,344	806,000	823,800		823,800	97.6	844,126
	有田町	5,485	3,291,000	2,615,500	319,000	2,934,500	99.6	2,947,760
	大町町	1,729	1,037,000	1,251,000		1,251,000	98.5	1,269,600
	江北町	2,748	1,649,000	1,821,800		1,821,800	89.6	2,032,400
	白石町	5,986	3,592,000	3,917,600		3,917,600	100.3	3,907,600
	太良町	2,258	1,355,000	1,325,885		1,325,885	99.1	1,338,350
	西部管内計	18,206	10,924,000	10,931,785	319,000	11,250,785	97.9	11,495,710
	町計 b	39,687	23,812,000	23,830,485	519,000	24,349,485	99.2	24,550,736
	a + b =B	227,819	136,692,000	97,760,640	887,290	98,647,930	97.1	101,617,154
総計 A + B	227,819	159,749,000	153,927,019	16,807,699	170,734,718	95.7	178,364,213	

8 支部評議員会の開催

(1) 令和6年度第1回支部評議員会 令和6年6月11日（於日赤佐賀県支部）

- 第1号議案 令和5年度事業報告について
- 第2号議案 令和5年度一般会計歳入歳出決算について
- 第3号議案 令和5年度医療施設特別会計歳入歳出決算について
- そ の 他 佐賀県赤十字血液センターの令和5年度事業報告について

(2) 令和6年度第2回支部評議員会 令和7年2月7日（於日赤佐賀県支部）

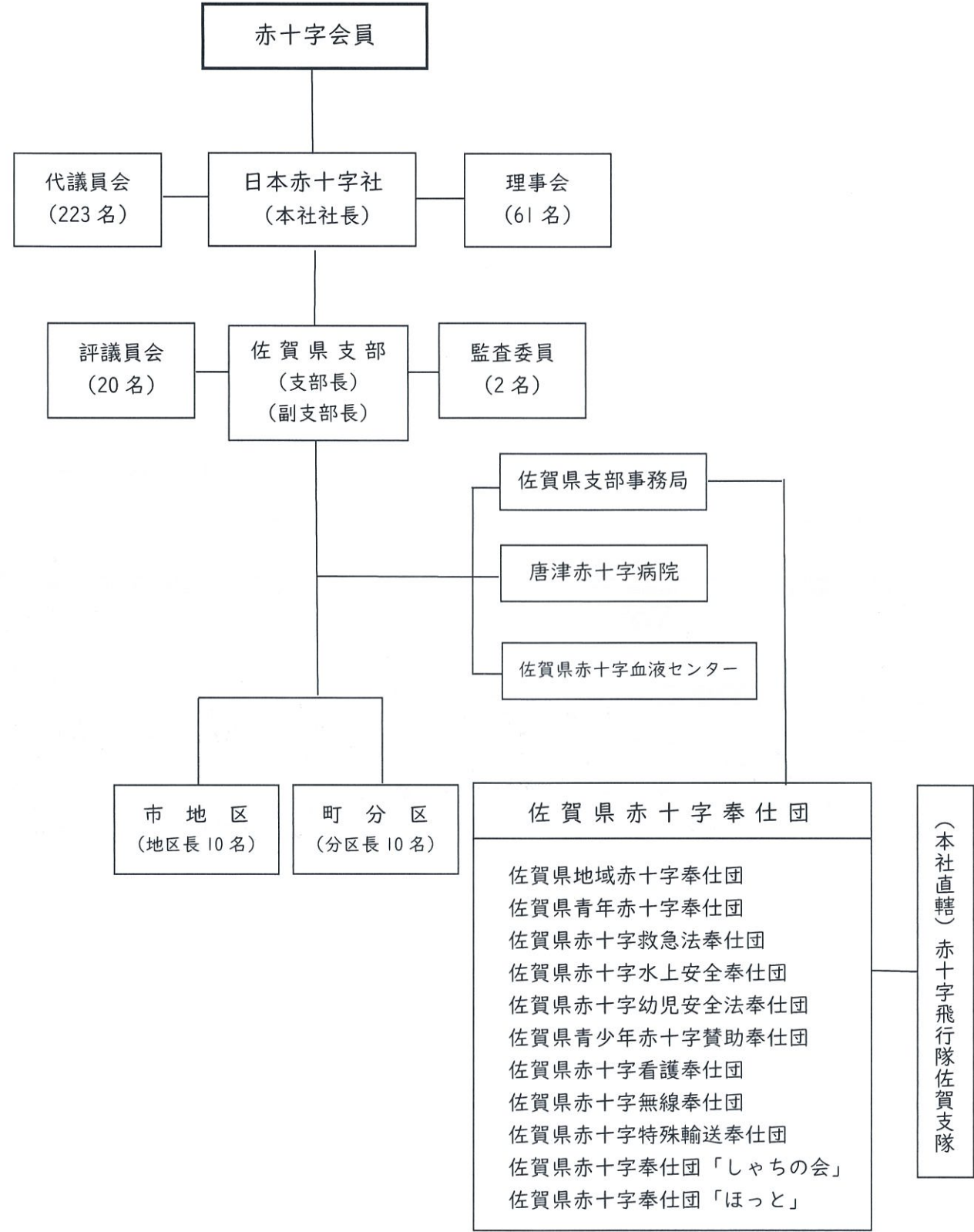
- 第1号議案 令和7年度日本赤十字社佐賀県支部事業計画について
- 第2号議案 令和7年度唐津赤十字病院事業計画について
- 第3号議案 令和7年度佐賀県赤十字血液センター事業計画について
- 第4号議案 令和7年度一般会計歳入歳出予算について
- 第5号起案 令和7年度医療施設特別会計歳入歳出予算について
- 第6号議案 日本赤十字社佐賀県支部選出代議員の選出について
- そ の 他 日本赤十字社佐賀県支部評議員の改選について
令和6年度唐津赤十字病院中間事業報告について



佐賀県支部の組織・役職員

(1) 組 織

(R 7 年 3 月 31 日現在)



(2) 役 職 員

ア 支部役員（Ｒ７年３月３１日現在）

職 名	氏 名	職 名 等
支部長	山口 祥義	佐賀県知事
副支部長	峰 達郎	唐津市長
支部監査委員	西 清澄	元佐銀リース(株)代表取締役社長
	山田 恭輔	江北町長

イ 佐賀県支部選出本社役員（Ｒ７年３月３１日現在）

職 名	氏 名	職 名 等
理事・代議員	中富 一榮	久光製薬（株）代表取締役社長
代議員	中山 弘志	（株）中山ホールディングス 代表取締役社長

ウ 佐賀県支部評議員（Ｒ７年３月３１日現在）

番号	氏 名	支部長・地区選出の別	職 名 等
1	桑原 昇	支部長	株式会社佐賀新聞社編集局長兼論説委員長
2	山口 七重	支部長	佐賀県地域婦人連絡協議会会長 佐賀県地域赤十字奉仕団委員長
3	久保山 善生	支部長	佐賀県社会福祉協議会副会長
4	堤 和幸	支部長	佐銀リース株式会社代表取締役社長
5	伊東 博己	佐賀市地区	佐賀市社会福祉協議会会長
6	小城原 直	佐賀市地区	佐賀市自治会協議会会長
7	峰 達郎	唐津市地区	唐津市長
8	向門 慶人	鳥栖市地区	鳥栖市長
9	横尾 俊彦	多久市地区	多久市長
10	深浦 弘信	伊万里市地区	伊万里市長
11	小松 政	武雄市地区	武雄市長
12	松尾 勝利	鹿島市地区	鹿島市長
13	江里口 秀次	小城市地区	小城市長
14	村上 大祐	嬉野市地区	嬉野市長
15	實松 尊徳	神埼市地区	神埼市長
16	伊東 健吾	佐賀中部地区（神埼郡）	吉野ヶ里町長
17	武廣 勇平	鳥栖地区（三養基郡）	上峰町長
18	脇山 伸太郎	唐津地区（東松浦郡）	玄海町長
19	松尾 佳昭	伊万里地区（西松浦郡）	有田町長
20	山田 恭輔	杵藤地区（杵島郡・藤津郡）	江北町長

任 期 自令和 7 年 2 月 14 日 ～ 至令和 10 年 2 月 13 日

エ 日本赤十字社佐賀県支部事務局（Ｒ７年３月３１日現在）

職 名	氏 名
事務局長	川久保 三起子
総務課長	稲富 鈴子
事業推進課長	原 香織

オ 唐津赤十字病院（Ｒ７年３月３１日現在）

職 名	氏 名	職 名	氏 名
院 長	宮原 正晴	脳神経外科部長	鈴山 堅志
副 院 長	生田 光	皮膚科部長	(欠)
副 院 長	田代 克弥	形成外科部長	(欠)
事務部長	五郎川 展弘	泌尿器科部長	明利 浩行
看護部長	成瀬 弘美	産婦人科部長	佐護 直人
事務部特別顧問	村山 仁志	放射線診断科部長	小池 真生子
疾病予防センター長	冨栴 りか	放射線治療科部長	松村 泰成
医療安全推進センター長（兼）	生田 光	リハビリテーション科部長	仙波 英之
がん医療推進センター長（兼）	鮫島 隆一郎	麻酔科部長	嘉手川 繁登
教育研修推進センター長（兼）	長嶋 昭憲	救急科部長	中島 厚士
救命救急管理センター長（兼）	中島 厚士	病理診断科部長	明石 道昭
救命救急センター長（兼）	中島 厚士	歯科口腔外科部長	(欠)
患者総合支援センター（兼）	長嶋 昭憲	薬剤部長（兼）	田代 克弥
感染管理室長（兼）	田代 克弥	医療技術部長（兼）	仙波 英之
第１内科部長	野田 隆博	医療社会事業部長	酒井 正
第２内科部長	長嶋 昭憲	医療技術部技師長	小池 昭男
第３内科部長	福島 伯泰	薬剤課長	岩田 和弥
感染症内科部長	(欠)	栄養課長	池田 敦子
第１循環器内科部長	森 唯史	検査技術課長	川内 保彦
第２循環器内科部長	(欠)	放射線技術課長	江口 教久
小児科部長（兼）	田代 克弥	臨床工学技術課長（兼）	小池 昭男
小児科部長	山口 賢一郎	リハビリテーション技術課長	麻生 昭秀
第１外科部長	鮫島 隆一郎	広報推進室長（兼）	五郎川 展弘
第２外科部長	井久保 丹	経営情報課長（兼）	五郎川 展弘
肝胆膵外科部長	神谷 尚彦	総務課長	徳田 孝久
乳腺外科部長	小原井 朋成	会計課長	大森 崇生
呼吸器外科部長	小島 勝雄	医事課長	野方 宏紀
整形外科部長（兼）	生田 光	医療社会事業課長（兼）	村山 仁志
眼科部長	緒方 正虎	診療支援課長	松本 英成
耳鼻咽喉科部長	(欠)		

カ 佐賀県赤十字血液センター（Ｒ７年３月３１日現在）

職 名	氏 名
所長	鷹野 誠
事業部長	田中 幸徳
総務課長	廣田 聡
献血推進課長	柴木 弘
採血課長	古賀 ひとみ
学術情報・供給課長	大坪 正道
品質情報課長	廣畑 和代
医務課長	山本 恵子

キ 専任職員数（Ｒ７年３月３１日現在）

施 設 名	職員数
日本赤十字社佐賀県支部	９名
唐津赤十字病院	506 名
佐賀県赤十字血液センター	35 名

日本赤十字社佐賀県支部の現勢（令和6年度）

1. 沿革

明治22年(1889) 5月28日 日本赤十字社
佐賀県委員部設置
昭和27年(1952) 10月31日 佐賀県支部に改称

2. 会員 個人 217,375人
法人 665法人
(※ 協力会員を含む社資会員)

3. 役員

支部長 山口 祥義（県知事）
副支部長 峰 達郎（唐津市長）
井上 洋（県健康福祉部長）
評議員 20人（定数）

（本社理事）中富 一榮
（本社代議員）中富 一榮 中山 弘志

4. 青少年赤十字加盟校登録数

幼・保育園	14園	2,518人
小学校	121校	29,360人
中学校	77校	20,796人
義務教育学校	6校	2,178人
高等学校	33校	10,313人
特別支援学校	5校	466人
計	258校(園)	64,476人
指導者数	5,474人	

（令和7年3月31日現在）

5. 赤十字奉仕団登録数

地域	22団	1,900人
青年	1団	24人
特殊	9団	211人
計	32団	2,135人

（令和7年3月31日現在）

6. 講習普及活動

区分	指導者	受講者
救急法	74人	4,096人
水上安全法	36人	1,365人
健康生活支援講習	8人	144人
幼児安全法	19人	653人
防災セミナー	20人	1,214人

（令和7年3月31日現在）

7. 災害等救護

救護班	班数	5班	人員	30人
無線局	基地局	4局	移動局	63局
車両等	救急車	2台	災害救援車	7台
	災害連絡車	2台	サーベータ	1台
資器材			線量計	42台
	エア Tent	5張	パイプ Tent	27張
	ドラッシュ Tent	1張	イーザー Tent	22張
	医療セット	2組	担架・ベット	46台
救援物資	NBC災害除染セット	1組	非常炊き出し釜	22台
	緊急セット	416セット	安眠セット	420セット
	毛布	1,264枚	非常食	578食
	バスタオル	592セット	ブルーシート	110枚

（令和7年3月31日現在）

8. 医療事業 唐津赤十字病院

施設数	1	診療科	32科	病床数	304床
総患者数	212,629人			1日平均	
入院	96,488人			264.4人	
外来	116,141人			479.9人	

（令和7年3月31日現在）

9. 血液事業 佐賀県赤十字血液センター

施設数	1	車両台数	19台
移動献血車（再掲）	2台	献血運搬車（再掲）	9台
献血者数	供給数（単位換算）		
成分献血	12,379人	成分製剤	41,865単位
400mL献血	20,478人	全血製剤	0単位
200mL献血	87人	赤血球製剤	35,058単位
計	32,944人	計	76,923単位

（令和7年3月31日現在）

10. 会計（令和6年度歳入歳出決算） 単位：千円

区分	歳入	歳出
日本赤十字社佐賀県支部	242,209	200,301
唐津赤十字病院	9,593,093	9,410,077

11. 佐賀県赤十字有功会（平成9年発足）

会長 中富 一榮
会員数 102（人・法人）

（2025/3/31 作成）



救うを託されている。

☐ 日本赤十字社佐賀県支部

〒840-0843 佐賀市川原町 2 番 45 号

〔TEL〕 0952-25-3108 〔Fax〕 0952-25-4184

☐ 唐 津 赤 十 字 病 院

〒847-8588 唐津市和多田 2430 番

〔TEL〕 0955-72-5111 〔Fax〕 0955-72-9530

☐ 佐賀県赤十字血液センター

〒849-0925 佐賀市八丁畷町 10 番 20 号

〔TEL〕 0952-32-1011 〔Fax〕 0952-32-2002